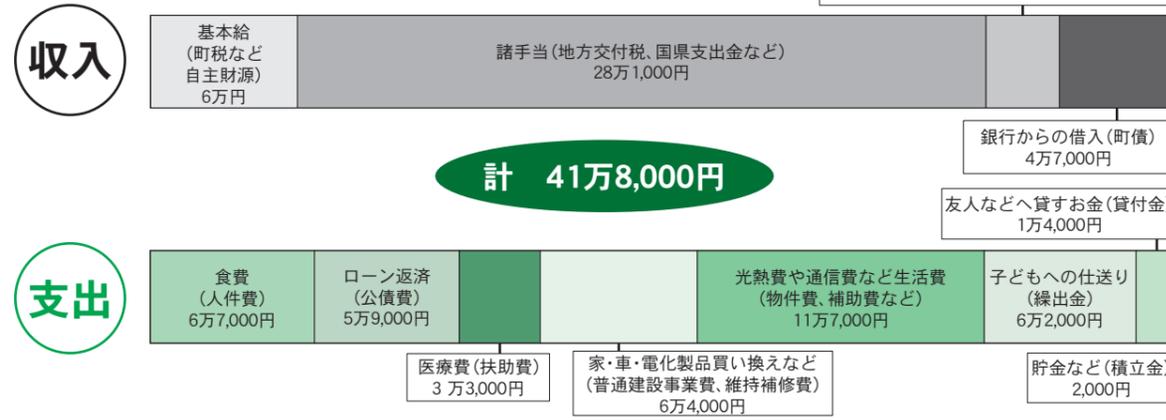


# もしも八峰町の予算を 家計簿に例えたら

平成28年度の八峰町一般会計当初予算（61億8,900万円）を、年間収支500万円（ひと月当たり41万8,000円）の家計に置き換えてみました。



事業収入・預貯金取り崩し(繰入金、繰越金)  
3万円



**【支出】**  
食費(人件費)、ローン返済(公債費)、医療費(扶助費)は義務的経費と言われ、この支出が高いと家計にあまり余裕がないこととなります。一般家庭のエンゲル係数と同じ考えです。義務的経費の次に多くの割合を占める生活費は、統合小中学校のスクールバス運行が始まったため、高くなっています。また、家や車、電化製品の買い換えや修理などにも、多くの経費がかかっています。

**【収入】**  
基本給が6万円と、少し実際の家計とはかけ離れています。その多くが町民の皆さんが納めた町税です。収入の大部分を占める諸手当のうち、地方交付税は、全ての自治体が一定水準の行政サービスを提供できるように、自治体間格差を解消するため、国から交付されるものです。また、預貯金を取り崩したり、銀行からお金を借りたりして支出の不足を補っています。

**持** 続可能で健全な財政運営を方についても検討します。町民の皆さんからの意見や要望をお聞かせください。

**皆** さんの家計と比べるとどうでしょうか。ローン(公債費)を5万9,000円返済する一方、新たな借入(町債)を4万7,000円に抑えることができました。

**町** 債には、合併特例債や災害復旧事業債などいくつか種類があり、種類ごとに決められた割合が数年後に地方交付税として町に交付されます。しかし、100%が交付されるわけではなく、結局は借金として町が将来にわたって負担していくため、計画的に発行する必要があります。

また、皆さんもご存じのとおり、全国的に少子・高齢化が進んでおり、本町も例外ではありません。人口が減ると税収が減り、高齢化が進むと医療費などが増加します。さらに、合併して10年が経ち、地方交付税が段階的に減るため、町の財政運営は一層厳しくなります。



4月6日、水沢小と塙川小が統合して誕生した峰浜小学校の開校式が行われ、新たな歴史が始まりました。式では町長が「一年一年の積み重ねが伝統ある小学校の歴史をつくる。力を合わせてがんばってほしい」と式辞を述べ、新しい校旗を手渡したほか、佐藤校長が「2つの小学校が統合したことのできる広がりの、お互いの地域を学びましょう。また、旧小学校のいいところを取って高め合い、単に1+1=2ではなく、3にも4にもなれるようにすることが私の目標」とあいさつしました。峰浜小は校訓「元氣 根氣 勇氣」の下、1～6年生までの133人と、25人の教職員で新たな学校生活をスタートさせています。

新たな歴史がスタート  
**峰浜小学校開校式**



4月6日、八森中と峰浜中が統合して誕生した八峰中学校の開校式が行われ、新たな歴史を歩み始めました。式では町長から皆川校長へ新しい校旗が手渡されました。また、皆川校長が「自ら進んで事をなし、新しいものを造り始める」という意味の校訓「進取創造」の下、学校を充実させ、統合してよかったと地域の人に言われるようがんばりましょう」とあいさつしたほか、生徒代表の日沼啓斗さんが「それぞれの学校の良さを合わせることで素晴らしい学校になる大人になってから八峰町のためにがんばれる人になりたい」と誓いました。八峰中は1～3年生までの163人と、30人の教職員で新たな学校生活をスタートさせました。

歴史の1ページを紡ぎ始めました  
**八峰中学校開校式**